

## 今週（11月1日から11月5日）の短期金融市場動向

### ●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、積み期間後半に入り調達に目途が付き始めた先が増えたためか、出合いレートは徐々に低下していく展開となった。地銀・証券業態の出合いは▲0.06～▲0.001%という幅広いレンジ、都銀・信託業態の出合いは▲0.07～▲0.055%と低めの水準であった。3日積みとなる5日は、調達額を抑える先が増え、ギブン地合いとなっていた。無担保コールO/N加重平均レートは、概ね▲0.03%前後での推移となった。ターム物の出合いは、1W～1M程度の期間で▲0.015～▲0.001%のレンジで出合いが中心となっており、積極的に運用する先も少なく、ON金利に比べレート低下は限定的であった。今週は1日にTB3M物の発行・償還、2Yの発行・償還、2日に10Yの発行、4日に税・保険料揚げ、普通交付税がある中、各種のオペ要因によって日銀当座預金残高は530兆円台半ばから後半での推移となった。

### ●レポ市場

今週のGC O/N物は、概ね▲0.10～▲0.09%程度の水準で推移した。

SC個別銘柄では、2年410～429、5年140～149、10年345～364、20年170～178、30年59～72、40年10～14などカレント近辺の銘柄にビッドの出入りが多く見られた。

### ●短国市場

今週の短国市場は、特段の材料もなく動意に乏しい中、散発的に出合いが見られるだけの閑散なマーケットとなった。

2日に実施された短国買入オペは、前回と同額(1,000億円)でオファーされ、弱めの結果となった。

5日に実施された3M物の入札は、前回入札時と比べて発行予定額が減額（50,000億円→43,000億円）となったことや、次回入札の3M物の償還日がNY祝日にあたることも意識され、やや強めの結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、やや堅調に推移した。

### ●CP市場

今週のCP市場は鉄鋼・機械・石油等の業態において大型発行が行われ、活況なマーケットとなった。入札ベースでは週間償還総額が3,000億円弱に対して、発行総額は7,000億円強となる大幅な発行超であった。発行額が膨らんだことに伴って、期内物だけではなく期越え案件もある程度は見られたが、期越え物の玉不足感は依然として強い。10月末の市場残高は約24兆3,000億円と前月対比で約3兆円、前年対比では約4,000億円増加している。4日時点では24兆円台後半まで増加するなど、順調に残高が積み上がっている。発行レートについては、新型コロナオペの根強い担保需要から投資家側による積極的な買いが見られ、希少銘柄に関しては低水準で推移している。

### ●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日 物・T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
11/1 (月)	29,647.08	0.090	114.12	△ 0.029	△ 0.096	5,393,300
11/2 (火)	29,520.90	0.080	114.10	△ 0.031	△ 0.095	5,350,400
11/3 (水)						
11/4 (木)	29,794.37	0.075	114.15	△ 0.033	△ 0.095	5,371,500
11/5 (金)	29,611.57	0.060	113.77	△ 0.036	△ 0.095	5,375,400

# 来週（11月8日から11月12日）の短期金融市場動向

## ●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
11/8 (月)	決定会における主な意見(10月27・28日分 8:50) 10月のマネタリーベースと日本銀行の取引(日銀 8:50) 9月の景気動向指数速報(内閣府 14:00)				
11/9 (火)	10月の景気ウォッチャー調査(内閣府) 9月の毎月勤労統計調査速報(厚生労働省 8:30) 9月の国際収支(財務省所管・日銀作成 8:50) 9月の特定サービス産業動態統計速報(経済産業省 13:30)	TB6M 34,500億円 11/10発行	30Y 9,000億円 11/10発行	交付税借入 11,000億円 11/18借入	10月の米生産者物価指数
11/10 (水)	10月のマネーストック(日銀 8:50)				9月の米卸売売上高 10月の米財政収支 10月の米消費者物価指数
11/11 (木)	10月の企業物価指数(日銀 8:50)	流動性供給 5,000億円 11/12発行	エネルギー 対策借入 6,500億円 11/22借入		New York祝日(Veterans Day) 7-9月期の英GDP速報値
11/12 (金)		TB3M 43,000億円 11/15発行			11月のミシガン大消費者信頼感指数速報

## ●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
11/8 (月)	900	2,900	3,800	CP買入 国債補完	▲ 100 800		700	4,500	TB3M発行▲43000償還48400
11/9 (火)	0	1,000	1,000				0	1,000	
11/10 (水)	1,000	▲ 12,000	▲ 11,000	社債買入 全店共通	▲ 2,400	1,300	▲ 1,100	▲ 12,100	TB6M発行▲34500償還30700 30Y発行▲9000 交付税借入▲11000償還11000
11/11 (木)	0	▲ 1,000	▲ 1,000				0	▲ 1,000	
11/12 (金)	0	▲ 3,000	▲ 3,000				0	▲ 3,000	源泉所得税揚げ 社会保障費等 流動性供給▲5000 交付税借入▲11000償還11000
週間合計	1,900	▲ 12,100	▲ 10,200	—	▲ 1,700	1,300	▲ 400	▲ 10,600	

11/8は日銀予想、11/9以降は当社予想

## ●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、積み最終日が近づき、調達を絞る動きが継続するようであれば、一段のレート低下となることも予想される。9日に発表される、11月積み期間に適用される基準比率は10.0%程度（10月は13.0%）を予想する。レポ市場は、概ね横ばい圏内のレートでの推移を予想するが、積み終盤に差し掛かるため投資家のオファー・ビッド動向には注意したい。短国市場は、12日に3M物の入札が実施予定となっている。需給やレート水準を含め、市場動向が注目される。また、11日に実施が予想される短国買入オペのオファー額・実施の有無にも注目したい。CP市場は、11日にCP等買入オペが5,000億円で実施予定となっている。発行レートは低水準であり、売却ニーズはあまり無いと思われるが、在庫の入替ニーズが見込まれることから、大きなレート低下は考えにくい。

主要なイベントは、海外では10日に10月の米消費者物価指数、11日に7-9月期の英GDP速報値が予定されている。

- ◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- ◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
- ◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。